



役場だより 役場庁舎移転について 第2号 ～頂いたご意見、ご質問について～

この広報では、庁舎移転についていただいたご意見・ご質問について、村の考え方をお答えします。（太字が村の考え方）

- ・村民の利便性を考えると（学校敷地は）あまり良くない。
- ・役場庁舎は行政だけのものではない。村の中心地にあることの意味を考えてほしい。
- ・現在の庁舎があつた場所にあることを考えたことはあるのか。
- ・新しく庁舎を建設することも検討してほしい。学校への移転は反対

現在の役場位置は土砂災害警戒区域の土石流・急傾斜地と地滑り警戒区域に指定されている。学校の所在地も土石流警戒区域には指定されているが、基礎工事を万全に施工したRC（鉄筋コンクリート）造である学校を選定したもの。

- ・中学校普通教室棟、コンピューター室棟で役場の業務スペースは確保できるのか。
- ・来庁者の駐車場スペースは確保できるのか。
- ・スペース的に足りない気がする。議場とか。
- ・中学校普通教室棟のほか、特別教室を利用する予定はあるのか。
- ・スペース不足は否めないで、プール敷を更地にする。
- ・学校のプールも消防水利としては必要。

中学校普通教室棟を執務スペースに、コンピューター室棟を会議室棟とすることで、必要な面積は確保できる見込み。その他の学校建物は役場庁舎として使用しない予定。村有地のみでは駐車スペースが不足しているので、少なくとも駐車スペースは別途確保の必要がある。将来的に学校プール敷を更地にした場合、消防水利として地下タンクを設置することも可能。

- ・現在の役場は無理。学校はちょうどいい場所
- ・役場玄関のイメージが湧かない。今の昇降口は役場玄関にはならない。
- ・コンピューター室棟、プール専用付属室棟は段差があるが大丈夫なのか。
- ・小学校と同じ建物に役場機能が移転した場合、児童及び教職員と、役場職員及び来庁者との区分、仕切りはどうなるのか。
- ・役場利用者は高齢者が増えている。学校はそもそも若い人が使用する前提で建設されている。

- ・高齢者が多いため、できるだけ段差をなくしてほしい。

改修案は別紙のとおり。役場へ来庁する不審者等の学校建物への侵入を防ぐため、学校占有スペースとの間に、常時は施錠するドアを新設する。

役場正面玄関は中学校棟多目的スペースの東側とする予定。コンピュータ室棟（会議室棟）への出入については、現在の通用口をそのまま使用し、来庁者が正面玄関から階段を使用して会議室棟へ移動する頻度を下げる。

- ・新庁舎の建築を考えたのか。始めから学校への移転ありきで話を進めていなか。
- ・学校の用途変更で建設時の補助金返還は生じないか。
- ・用途変更の手続き、役場庁舎とする手続きはどうか

同規模の施設を新築した場合、概算の建築費は2.3億円～2.6億円余（用地取得費、地質調査費を除く）となり、改修した場合の概算工事費（1.2億円：外構工事費を除く）と比べると、村の財政負担が半分程度となる。学校建設時の補助金（国庫負担金）については、公共施設への用途変更となるため、補助金返還は生じないことを確認済（用途変更申請は別途必要）。庁舎を移転した場合、村条例の改正が必要となる。

- ・現在の中学校は【休校】扱い。役場が移転した場合、将来的に【中学校を再開する】という考えから遠のく感じがする。
- ・中学校は【休校】であり、廃校とはなっていない。

木曽町へ中学校教育事務委託とした理由は、少人数化に伴う教育環境の改善と、教員確保が難しいという問題。現状の未就学児数、出生数を見た場合、この状況が早期の段階で解消することが見込めない。

- ・役場機能を移転する場合、予算はどの程度を見込んでいるのか。
- ・場所だけではなく、予算等の数字を示した説明がいいのではないか。
- ・改修工事は遅くなればなるほど工事費が嵩む。
- ・今ある施設を活用し、経費をかけず庁舎整備をする考えはよいと思う。
- ・庁舎機能移転のスケジュール感はどうか。移転はいつ頃を予定しているか。

概算改修費用は前出のとおり1.2億円。その他に増工費用や、用地取得、通信設備工事など、数千万円程度見込む必要があると考えている。大まかなスケジュールとしては、令和7年度中に改修工事の実施設計を終え、令和8年度初めから改修工事に着手する。

- ・現在の役場庁舎はどうか。
- ・文化財として現在の庁舎を残してほしい

現庁舎は耐震性が非常に低いため、人が常時出入りする施設としては使用しない。東側の別棟については、文書保管スペースとして活用する。現庁舎の解体は考えていない。

- ・外部の検討委員会はあるのか。外部の意見も聞くべき。
- ・検討する時間が短すぎる。もっと時間をかけて検討すべき
- ・農協や郵便局との一体化も考える必要があるのでは
- ・現在の役場庁舎の耐震化を考えてから庁舎移転を検討すべき

南海トラフ巨大地震の発生確率を考慮した場合、時間的な余裕はなく、工事期間の短縮も考慮して既存施設の改修という考えに至ったもの。また、現在の役場庁舎は以前行った調査で、構造上の問題で耐震補強はできないと診断されている。

- ・公民館機能を他に移転し、公民館に役場機能を移転する案はどうか。
- ・小川の山村交流センターを庁舎とするアイデアはどうか。
- ・旧営林署跡地に複合施設を建設する考えはないか。

王滝村公民館については一つの建物で構造が鉄骨造と鉄筋コンクリート造との複合構造であるため、耐震性の問題がある。山村交流センター（管理棟）については、床面積が不足していること、また、村中心部から距離があり、利用者の利便性を考え、候補から外したものの。旧営林署跡地については、耐震構造物を建築する場合、相当の地盤強化が必要と思われることから除外したもの。

- ・役場庁舎（移転）を考える前に、他の防災対策を実施してほしい。
- ・学校体育館が避難所となっているが、雨漏りが生じている、庁舎移転については、体育館を修繕してから考えてほしい。

防災対策及び公共施設修繕については計画的に実施する。

- ・小学校児童数が減少した場合、将来的に小学校はどうするのか。
- ・小学校の水泳授業を木曽町で行うことは、時間も経費も掛かる。

王滝小学校は存続させる方針としている。現在の学校プールはFRPの経年劣化が生じており、児童が怪我をする恐れもある。また、水泳授業を三岳小学校などと実施することにより、交流の機会を増やすことは、時間や費用などのマイナス面以上のプラス効果が期待できる。

改修案

